

VII 花 き

シンビジウム

1 施肥基準設定の基礎

CP苗2月導入34カ月栽培（3号鉢6カ月、4.5号鉢7カ月、6号鉢21カ月）後、鉢物としての出荷を基準として設定する。

2 1鉢当たり施肥量(g)

生育ステージ	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
3号鉢	0.6	1.4	0.2
4.5号鉢	2.4	5.2	0.6
6号鉢	10.4	18.6	1.9
計	13.4	25.2	2.7

3 施用方法及び留意事項

- (1) 3号鉢上げ時の基肥は緩効性化成肥料を鉢底に入れる。
- (2) 追肥は新根が伸びはじめてから行う。
- (3) 鉢替え時には緩効性化成肥料を鉢底に入れる。
- (4) 追肥は1カ月1回の有機質肥料の置き肥を基本とするが、数カ月に1回、その期間の窒素成分量に準じた量の緩効性被覆肥料を一括施用してもよい。

ミヤコスワレ

1 施肥基準設定の基礎

10a当たりの収穫量100,000本を基準として設定する。

2 10a当たり施肥量(kg)

施肥時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
育苗床	3	5	5	
本ば	基肥	20	15	20
	追肥	5	3	3
本ば計	25	18	23	

3 施用方法及び留意事項

- (1) 堆肥1,000kgと石灰資材、例えば苦土石灰60kgを基肥時に施用する。
- (2) 育苗期の施肥過多は軟弱繁茂になって病害が発生し易い。

キ ク

1 施肥基準設定の基礎

10 a 当たりの収穫量は40,000本を基礎として設定する。

2 10 a 当たり施肥量(kg)

(1) 露地ギク (秋ギク)

施肥時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基 肥	1 2	1 2	1 2
追 肥	1 0	1 0	1 0
計	2 2	2 2	2 2

(2) 電照ギク (夏秋ギク)

施肥時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基 肥	1 0	1 0	1 0
追 肥	1 2	1 2	1 2
計	2 2	2 2	2 2

(3) 電照ギク (秋ギク)

施肥時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基 肥	1 6	1 6	1 4
追 肥	1 6	1 6	1 4
計	3 2	3 2	2 8

3 施用方法および留意点

- (1) 連作地の場合は前作の残存肥料に留意して施肥量を加減しEC1.0dS/m以上の時は基肥を施用しない。
- (2) 堆肥は2,000～3,000kgを施用し、基肥は植付けの10日以上前に全面にすき込んでおく。
- (3) 追肥は草丈20cm程度の時と花芽分化期前後1～2回の合計2～3回に分施する。

シ ャ ク ヤ ク

1 施肥基準設定の基礎

10 a 当たりの収穫量は、3年目4,000本、4年目8,000本、5年目10,000本を基準として設定する。

2 10 a 当たり施肥量(kg)

(植付け1~2年目)

施 肥 時 期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基 肥	28	21	16
夏 肥	17	4	11
秋 肥	14	4	8
計	59	29	35

(植付け3年目以後)

施 肥 時 期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
春 肥	0	3	3
夏 肥	20	15	15
秋 肥	10	14	10
計	30	32	28

3 施用方法及び留意事項

- (1) 基肥時には堆肥3,000kg、鶏ふん堆肥100kg、苦土石灰100kg、秋肥時は堆肥1,000kgを施用し土壌改良を図る。
- (2) 基肥は油かす50kgおよび石灰窒素、化成肥料で施す。

オリエンタル・ハイブリッド系ユリ

1 施肥基準設定の基礎

10 a 当たりの収穫量18,000本を基準として設定する。

2 10 a 当たり施肥量(kg)

施肥時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基肥	15	15	15
追肥	5	-	5
計	20	15	20

3 施用方法及び留意事項

- (1) 堆肥は基肥時に2,000kg施用する。
- (2) 追肥は葉色等を見て施用する。

シンテッポウユリ

1 施肥基準設定の基礎

実生栽培では、10 a 当たりの収穫量16,000本を基準として設定する。

2 10 a 当たり施肥量(kg)

施肥時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基肥	15	20	15
追肥	10	10	10
計	25	30	25

3 施用方法及び留意事項

- (1) 基肥時に堆肥2,000kg、石灰資材例えば苦土石灰100kgを施用する。
- (2) 肥料吸収量が多く、生育初期の肥効が良質生産のポイントになる。
- (3) 追肥は生育に応じて数回に分施する。
- (4) 裸地栽培では基肥のN、P₂O₅、K₂Oをそれぞれ5kg増量する。

フ リ ー ジ ア

1 施肥基準設定の基礎

10 a 当たりの収穫量100,000本を基準として設定する。

2 10 a 当たり施肥量(kg)

施 肥 時 期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基 肥	20	20	20
追 肥	5	-	5
計	25	20	25

3 施用方法及び留意事項

- (1) 小球性のため土壌の肥沃度が生育に大きく影響する。
- (2) 追肥は生育状況に応じて施用する。

バラ（温室）

1 施肥基準設定の基礎

温室周年切り栽培型で10a 当たり収穫量120,000～150,000本を基準として設定する。

2 10a 当たり施肥量(kg)

施肥時期		N	P ₂ O ₅	K ₂ O
新植	基肥	20	60	15
	追肥	60	30	50
	計	80	90	65
2年目以降	追肥	70	40	60

3 施用方法及び留意事項

- (1) 有機物多用による窒素飢餓防止のため灌水と施肥を常に行う。
- (2) 追肥は1～2カ月に1回の割合で年間施用する。
- (3) 11月～12月の冬期は化成肥料を施用し、それ以外の時期は有機質肥料を主体とする。
- (4) 土壌中の肥料濃度の目安

診断項目	単位	基準値
作土の厚さ	cm	30以上
有効根群域の深さ	cm	60以上
ち 密 度	mm	20以下
作土の土性		砂壤土～壤土
孔隙率	%	50以上
塩基置換容量（CEC）	me	15以上
pH（H ₂ O）		6.0～6.5
EC（1：5）	dS/m	0.5
腐植	%	4.0
交換性石灰（CaO）	mg/100g	200～250
交換性苦土（MgO）	mg/100g	30～45
交換性カリ（K ₂ O）	mg/100g	35～50
有効態りん酸（P ₂ O ₅ ）	mg/100g	40～80

その他の花き

作物	施肥時期	10 a 当たり施肥量 (kg)			備 考
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
カーネーション (温 室)	基肥	15	20	15	pH (H ₂ O) 6.0~6.5 EC (1:5) 0.3~0.5 dS/m 追肥は毎月施用
	追肥	55	20	55	
	計	70	40	70	
チューリップ (促 成)	基肥	10	20	12	肥料の流亡の多い圃場では20~30%増施
	追肥	-	-	-	
	計	10	20	12	
テッポウユリ (促 成)	基肥	2	2	2	大球利用では無肥料とし小球による半促成では肥培する。
	追肥	-	-	-	
	計	2	2	2	
グラジオラス	基肥	13	11	11	緩効性肥料を用い生育期間中肥効を維持する。 使用球の大きさにより増減する。
	追肥	5	5	3	
	計	18	16	14	
チョウセンマキ	春肥	10	8	8	寒肥：鶏ふん堆肥400kg
	秋肥	10	8	8	
	寒肥	12	14	7	
	計	32	30	23	
イブキ	春肥	10	8	8	寒肥：鶏ふん堆肥300kg
	秋肥	10	8	8	
	寒肥	9	10	5	
	計	29	26	21	
黄金ヒバ	春肥	10	8	8	寒肥：鶏ふん堆肥400kg
	夏肥	10	8	8	
	寒肥	12	14	7	
	計	32	30	23	

作物	施肥時期	10 a 当たり施肥量 (kg)			備考
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
オモト	基肥	20	20	20	基肥：(初年度)：植付1カ月前の3～4月に施用 追肥：(2年目以降)：3月上旬と9月上旬の2回に分施
	追肥	18	18	18	
	計	38	38	38	
スターチス・シヌアータ	基肥	6～8	12～15	10～12	草姿をよくするため、肥沃地では少肥栽培とする。
	追肥	2	2	2	
	計	8～10	14～17	12～14	
宿根カスミソウ	基肥	10	10	10	窒素の過多は品質低下を伴うので、肥沃地では減肥する。
	追肥	5	5	5	
	計	15	15	15	